



美術鑑賞学習の指導法 vol. 4

幼稚園・低学年における美術鑑賞学習の有効性に関する実証的研究

野網 学（附属池田小学校） 山本 良太（理数情報教育系）

本実践の アプローチ

低学年において、美術作品を対象とした鑑賞学習をするにあたり、名画との出会いや活動のはじまりを工夫し、児童がワクワク感をもって取り組むことができるように題材を開発しました。活動の入り口として造形遊びをすることで、子どもたちが造形活動の楽しさを感じて没頭したまま名画鑑賞に誘うことができます。

導入活動の 教育的意義

作品鑑賞に先立って、子ども自身が表現活動を行うことの教育的意義は以下の4点です。

- ① 既存経験の活性化
- ② 興味関心の喚起
- ③ 表出の足場形成
- ④ 身体感覚の準備

小学校低学年における2つの実践プラン

幼稚園・保育所・こども園への展開

実践①「色」に焦点化	実践②「形」に焦点化	絵画からの美術鑑賞
色水遊び → 鑑賞 （全4時間）	釘打ち・ジオボード → 鑑賞 （全11時間）	ゆびえのぐで波を描く → 北斎の波と出会う [45分]



実践① 小学校低学年

北さいさんと色水あそびをしよう

～「色」の観点から《神奈川沖浪裏》をみる～

題材目標

- 大きな波や富士山、舟などの色に気付く。【知識・技能】
- 青と白のグラデーションなどに気付き、それらが生み出す効果やよさについて考える。【思考・判断・表現】
- みる活動を味わい、楽しく美術鑑賞学習の活動に取り組もうとする。【学びに向かう力】

単元計画 全4時間

- 第1次 2時間 ▶ ペットボトルに水と絵の具を入れて色水をつくる。つくった色水から思いついた活動をする。
- 第2次 1時間 ▶ 《神奈川沖浪裏》の中の色を色水で再現。混色や希釈で近づける。対話による鑑賞。
- 第3次 1時間 ▶ クラス全体の《神奈川沖浪裏》を色水カップで制作。振り返り。

準備物

絵の具、ペットボトル（児童持参）、プラスチックカップ、《神奈川沖浪裏》図版（ラミネート）

評価の観点

- 作品の色の多様性に気づく【知識・技能】
- 色の効果について考え表現する【思考・判断・表現】
- 主体的に色を探索する【学びに向かう力】

指導のポイント

- 第1次では鑑賞との関連は伝えない
- 「波」でも青一色ではないことに気付かせる

対話を促す発問例

- 「一番多い色は何色だろう」
- 「どうして青の種類がたくさんあるんだろう」
- 「白が他の色だったらどうだろう」
- 「白があることで、どんな効果があるだろう」



児童の振り返りから

わたしは、1つの色を色々な色とまぜたら、たくさんしゅるいが生まれることを知りませんでした。今日の絵を見たら、同じ色なのに、すこし、しゅるいがちがいました。みんなでもちよったとき、「同じ絵を見ているのに、かんじがちがうな」と思いました。

同じ青色でも、すこしこかったり、うすかったりしたのでつくるのがむずかかったです。みんなで絵をつくるときは、絵をよく見ながらやりました。これからは、もっと色のくふうして、たのしみたいです。

色水をまぜたら、いろいろな色ができて、びっくりしました。青でも、いろいろなしゅるいがあることです。青のしゅるいが多いから波が立体的に見えることに気づきました。家でもやってみたいと思います。

幼稚園・保育所・こども園（年長児）

ザブーン!わたしの波、北斎さんの波

～造形活動から《神奈川沖浪裏》につなげる～

ねらい

- 幼児が自由に「波」を表現する体験を通して、葛飾北斎作《神奈川沖浪裏》に描かれた波の表現に気づき、形や色の造形要素から絵の中で何が起きているかを感じ取る。



活動の流れ 全45分

- 導入 5分 ▶** 波のイメージを共有。「海に行ったことある?」「ザブーン」「ジャブジャブ」など擬音語や身体表現でイメージを膨らませる。
- 展開① 波を描く 20分 ▶** 大きな模造紙にゆびえのぐで「波」を表現。「手に絵の具をつけて、大きな波を描いてみよう」※擬音語を発しながら描く姿、身体的・情動的反応に注目
- 展開② 波を見る 10分 ▶** 北斎の波と自作を比較。
発問:「みんなの波とどこが違うかな?」→造形要素への気づき
- 展開③ 対話 10分 ▶** 作品を見ながら、何が描かれているか、どんなことが起きているかを対話する。
発問:「この絵の中で、何が起きているのかな?」「波はどんな気持ちかな?」

準備物

模造紙、ゆびえのぐ（青系・白）、新聞紙、ぞうきん・バケツ、エプロン、《神奈川沖浪裏》大判印刷物

評価の観点

- のびのびと波を表現【関心・意欲】
- 北斎の波との違いに気づく【観察・気づき】
- 感じたことを言葉で表現【表現・伝達】



指導上の配慮事項

- ① 身体性を大切に: 擬音語を使った声かけて、身体全体を使った表現を促す
- ② 正解を求めない: 幼児の気づきや発見を大切に、「自分なりの見方」を育てる
- ③ 多様性を認める: 友達の見方を聞くことで、多様な見方があることに気づかせる

対話による鑑賞の展開例

- 形の発見から表現意図へ
C1「富士山は三角の形」→ C2「波のところも三角になっている!」→ C3「同じ形にしたかったから、北斎さんはこうしただと思う」【形の類似性から作者の意図を推測】
- 大きさの比較から遠近への気づき
C1「波の方が富士山より大きい」→ C2「富士山が遠くにあるから小さく見える」→ C3「波は近いから大きく見えるんだ」【遠近法への直感的理解】
- 絵の中の物語を想像する
C1「津波の絵だと思う」→ C2「波がすごく大きいから」→ C3「船に乗ってる人は「うわー」って思ってる」→ C4「波が怖いぐらい来てる」【場面の情景を共同で構築】
- 色の効果を考える
T「白は何のために使われている?」→ C1「泡が出るから白」→ C2「シャボン玉みたいで波に見える」→ C3「いろんな色の方がおもしろい」【色彩の表現効果への気づき】

実践② 小学校低学年

北さいさんと形あそびをしよう

～「形」の観点から《神奈川沖浪裏》をみる～

題材目標

- 三角形や丸などの形を、作品の中から見つけることができる。【知識・技能】
- 形の工夫により、作品にどのような効果を生み出しているか自分なりに考えている。【思考・判断・表現】
- 大きな波や富士山、舟などの形に関心を向けている。【学びに向かう力】

単元計画 全11時間

- 第1～3次 8時間 ▶ 造形遊び: 釘打ち・ジオボード制作・輪ゴムによる形遊びを通して、釘と輪ゴムの扱いに慣れる。
- 第4次 1時間 ▶ 頂点を探せ: 《神奈川沖浪裏》が印刷された板に、形の頂点を見つけて釘を打つ。
- 第5次 2時間 ▶ 北斎さんと形遊び: 輪ゴムで形を表現し、形が作品に与える効果を考察。対話による鑑賞。

準備物

油粘土、カラー釘、木の板、ネイルガイド、ハンマー、輪ゴム、《神奈川沖浪裏》が印刷された A3 サイズの板

評価の観点

- 作品の中から形を見出す【知識・技能】
- 形の効果を考察し表現する【思考・判断・表現】
- 形への関心を持ち探求する【学びに向かう力】

《神奈川沖浪裏》の幾何学的特徴

- 円形と曲線: 波の輪郭・渦
- 三角形: 富士山・波の中
- 対角線: ダイナミックな構図
- 黄金比: 調和と美しさ



児童の振り返りから

このじゅぎょうで、絵にも形がいっぱいあることに気づきました。葛飾北斎さんの絵で10個ぐらい形を見つけたので、まるや三角、四角などの形が絵にとってはほんとにも大切なんでしょう。見つけた形は直角三角形などの三角形が多かったです。

三角形が2つあるから迫力を感じたと思います。まるが2つあるからなみが大きくて強い感じだと思いました。くぎをうつ楽しさと、ふがく三十六けいに出てきた形のはく力を知ることができました。

丸が2つあることで波がおそいかかっているように見える。三角があることで波がどんな感じにすごいのがわかる。また頂点を探るのが難しかったけど、またやっているところから頂点をあぶり出したいです。